

Letter

筑波大学が長照二氏に対して取った処置について弁明する水林博氏の書簡〔Physics Today 誌、2009年2月号12頁〕には、私たち兩名および9名の共同署名者たちが、この事件および大学が取った手続きを十分に把握していないのではないかと指摘しています。しかしながら、私たちは確かに、大学側の証拠がまとめられた調査結果を入手して読んだ結果、この報告書は、どれもデータ改ざんがあったとの結論を下すには、はなはだしく不十分なものだとの結論に到ったのです。十分な検討を行っていないのはむしろ大学側であり、この調査結果は、長氏が Physics of Plasma 誌に発表した、これに引き続く明快な論文^{参考文献1}の内容の検討もしていないのです。水林氏は、自らが率いる委員会の調査の後、共同執筆者23名(全員が筑波大学所属)が Physical Review Letters に対し、当該論文の執筆者名から自分の氏名を削除するように求めた、と述べています。しかし、大学側の見解に異議を表明した4名の共同執筆者の一人であり、唯一人、大学から処分を受けない立場にあるウラディミル・パスツコフ氏は、原論文を守る姿勢を変えていません。パスツコフ氏は、この論文は GAMMA 10 グループの研究成果の中でも重要なものの一つだと考えています。要約すれば、水林氏の書簡は、正確・的確で公正かつ透明な学問的手順が守られたかどうかについて、私たち兩名や共同署名者たちが抱く懸念を、いささかも拭うものではありません。

参考文献

1. T. Cho et al., *Physics of Plasmas* **15**, 056120 (2008).

ハーバート L バーク
テキサス大学オースティン校

ナサニエル J フィッシュ
プリンストン大学
プリンストン、 ニュージャージー